

こんにちは。今年の日伊ビジネスグループの 21 年目の年となりますが、両国とも今年の世界経済を巻き込んだ経済危機よりいかに脱するかという課題に取り組んでいる年でもあります。ここでは非常に二国の対応の中で類似点が見られ、両国が乗り越えようとしている問題も大変似ています。例えばまだまだ弱い内需、輸出に大幅に頼っている経済、高い国の負債、こういった要素が我々の歩みを遅くしかも複雑にしているわけです。しかしまた、両国の持つ同種性にも興味深いものがあります。手工業を主体とした産業です。イタリアは工業全体の 20%を占めていますが、日本はもっと高いでしょう。先ほども申しましたように我が国の輸出は GDP の 25%を占めておりますが、日本にとっても輸出は大変重要な要素です。これが何を意味するかといいますと、我々の国の注意は常に外に向いています。国内ばかりに気をとられているのではなく、経済発展のためにグローバルな貿易を探している国なのです。

確かに、他にも重要な側面が多々あります。例えば産業クラスターも日本とイタリアにおける共通の特徴の一つです。それに中小企業も両国にとって大変重要な存在です。そして大きな付加価値を与えてくれる要素にテクノロジー・イノベーションがあります。他の方々の指摘もありましたように、それでもまだ両国の交流は十分ではありません。商業および経済的な交流は他の国よりもっと良くてもいいはずですが、もっといくつかのステレオタイプを見直す必要があるのではないのでしょうか。例えばイタリアは付加価値の高い一貫したスタイルを持った製品ばかりを生産しているわけではなりません。テクノロジーのパートナーとしても十分な素質を持っています。これは特にこの日伊ビジネスグループのいくつかの特殊なテクノロジーに関するセッションからおわかり頂けると思います。この新しいアプローチが両国の関係の新しいステップを開くと信じております。そしてさらに両国の商的のみならず、経済交流の発展につながっていくと思います。

ありがとうございました。